

杉本和美

事業が大きくなっていくと、それをまとめていくことの重圧や責任分担など、さまざまな心理的側面に皆が四苦八苦しているのが手に取るように分かった。ただ、自立生活センターとうくくりを死守したいという強い気持ちが皆の支えの中心にあったことは確かな事で、それに敬服するばかりだった。

杉本個人は、障害者の自立に対する考え方、自立生活センターの考え方とは少し異なるので、このまま理事を続けていく事が良い事ではないと判断した。また、障害を持った職員こそが、自分自身の生き方や働き方や役割を考えていく事が、最も大切であるとも思う為、退任せ頂くことにした。

しかし、今後もひまわり事業団の発展を願い、私のできる事があれば協力は十分にしていくつもりであるし、私も助けて頂ければ幸いである。

事業を継続するためには、利用者の確保が必要であることは重々承知であるが、利用者＝お金ではないので、障害者個人そのものが主役として生活を作っていくように支援していくことを肝に銘じていなければならぬと思う。

利用者を大事にし、職員を大事にし、雰囲気を大事にし、なるべく嘘偽りのない事業運営をしていくことこそが、今後また以前にも増して大きな評価を得ていく糧になると思う。

橋本コラム トールのトーク

ゴールデンウィーク最中、テレビをつける。象徴天皇代わりの話題ばかりだ。
平成の天皇は象徴として、最初は火炎瓶を投げられながらも何度も沖縄を慰靈に訪れた。
慰靈の旅は海外にも及んだし、災害が起きれば被災者の傍らに座った。
明治から昭和までの天皇が、国家神道の名の下で神格化され政治の道具に成り下がっていたのとは正反対のことをやってのけた、という意味においては人間として尊敬はする。
新しい象徴天皇にも、自ら考え行動してほしいね。
以前注目した報道に、「大嘗祭(だいじょうさい)に国費を使うべきではなくて、身の丈に合ったものを」と、秋篠宮が発言したが、その通りと思う。
宮中祭祀(きゅうちゅうさいし)は、神道に由来する宗教行事なので、公費を使うと政教分離に反することになるんじゃない?
連續した年月を、政府が「明日から令和になります」、などと区切るのってなんか変だ。
日本国憲法下で新皇室典範では、元号に対する規定はない。単なる特例法があるだけだ。
お祭り騒ぎの中、聾聾(ひんしゅく)を買ひそうだが、元号って本当に必要なのだろうか?
現在では用のなくなった盲腸みたいに、あってもなくてもいいような感じがするのだが。
さりとて、最初からあるものを取り必要もないのだけれどね。

静岡障害者自立生活センター：橋本徹

“どんなに重い障害があっても
地域で共に生きる社会”を目指して！



NEWS

2019年
6月号



なな～ら（グレープホーム）
お弁当持って、夜桜見物を楽しみました！



～今月の目次～

放課後等デイサービスらるく 「祝卒業」と「おでかけレポート」	2
THE ちゃれんじ それいゆ生活介護 大橋さん 一人暮らしはじめました	4
日本の障害者運動の歴史と静岡の24時間介助保障	6
連載：ひまわりヒストリア 1979年 ひまわり寮～私たちの活動の原点	8
連載：サポート×サポート 杉山秀子×望月賀津子	10
ひまわり事業団 新役員のご紹介！	13
橋本コラム「トールのトーク」	16

祝卒業

中央特別支援学校を卒業し、それぞれの進路に向かって4月から新しいスタートを切った3人。慣れない事も多いと思いますが、らるく職員はずっと応援しています！遊びに来てね♡



春休み

3月21日（木祝）

光と遊ぶ春のワンダーランド

「魔法の美術館 リミックス」

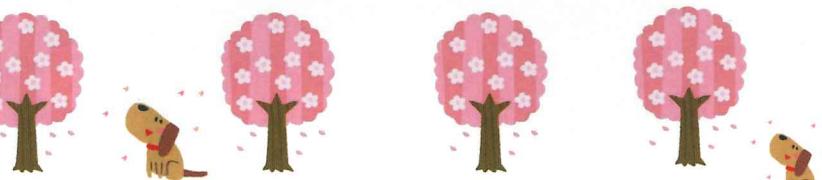
3月29日（金）

近隣公園

NHK 静岡放送会

4月5日（金）

清水船越堤公園



3月22日（金）

日本平夢テラス

4月2日（火）

城北公園

4月4日（木）

高松公園

4月9日（火）

みほしるべ

三保の松原

~2~



魔法の美術館

キラキラ して不思議な世界に入りました。



NHK

見学に行きました



ON AIR

スタジオも入れたけど、写真撮影禁止
アナウンサ体験が出来るとなると積極的に手を挙げて、自分がやる！と伝え
やる気が見られました！

写真がないのが残念



夢テラス

眺めが良く気持ち
よかったです

船越堤公園

満開の桜
天気良かつたし
富士山も見えた！

みほしるべ

三保松原文化創造センター
流木で作った楽器があつた
貸衣装で羽衣があつたり、
足湯もありました！
三保の歴史や文化、
芸術に触れられます！

足湯
きもちい

~3~

THE ちゃれんじ 生活介護それいゆの巻

記 鈴木 香奈

一人暮らしはじめました



昨年 改造計画で変身した大橋さん（中央）

一人暮らしをするまでの経緯

両親が亡くなり、同居していた姉夫婦は自分に対しての関心があまり無く、特に義兄が協力的ではありませんでした。そのため、同居はしていたものの、お風呂以外はほぼ自分の部屋から出ることはなく、食事も姉が作ったものが部屋に運ばれてくる生活だったので正直寂しかったです。施設入所も考えましたが、制約も多く、自由が少なく、自分のやりたいことがなかなかできないと思いました。

同居中は、他人の家にいるような感覚で居心地が悪かったです。

今回のちゃれんじ企画は、人生の大ちゃれんじと言っても過言ではないかもしれません。以前から改造計画などで登場している大橋剛和（おおはしたけかず）さんは、かねてから一人暮らし実現に向けて自立生活プログラムや、それいゆの活動のなかでも料理などに積極的に取り組んできました。その甲斐あってか、ついに今年の1月末より一人暮らしをはじめたのです！！今日はそんなタケさんに一人暮らしでの苦労や思いを聞いてみました。

一人暮らしをするまでの経緯

大橋剛和（おおはしたけかず）さん

はじめました～
一人暮らし
ぶっちゃけ…

母がいた頃は、母に対しても陰口のようなことを言っていて、それをたまたま聞いていた本人は、凄く腹が立ったけど、居候の身で反論することもできず、耐えていました。言いたい放題にさせる姉にも腹が立っていたし、何より義兄に世話になるのが嫌で、一人暮らしをしたいという思いがより強くなりました。

それいゆでの料理の様子

一人暮らしを実現してからの夢は？

とにかく今まで経験できなかった新幹線や飛行機に乗ったり、旅行もして一人暮らしを満喫したいです。そして、いずれは異性との出会いも欲しいし、叶うなら結婚もしてみたいですね。



様々な思いの中、本格的に物件探しをはじめた頃、公営住宅の抽選があるとのことで応募してみることに。当選確率は非常に低いと言われていましたが

見事バリアフリー物件に当選したのです！！
そして、急ピッチで引っ越しに向けての準備が進められていきました。

引っ越し先は公営住宅のバリアフリー物件



今年1月末。年が明けてまだまだ慌ただしい中、タケさんは引っ越しを済ませました。というのも、公営住宅に当選した者は、期日までに引っ越しをしなければならないという決まりがあるからです。公営住宅は当選倍率が高いため、“ダメ元”的な思いで応募したのが本音。そのため、家具や家電の準備すらでてきておらず、引っ越しでは本当に慌ただしかったです。



それいゆメンバーで新居へGO！！



こちらは引っ越し当日の様子。日頃から自立生活プログラムで一緒だった男性職員と、介助派遣ひだまりのキレイドコロである女性職員が早速新居へ。それにしても、タケさんの表情に注目！明らかに女性職員といふ方が嬉しそうですね。わかりやすいんだから～(笑)。

日本の障害者運動の歴史と 静岡の24時間介助保障

自立生活運動の系譜を辿ると、70年代の神奈川を中心とした青い芝の会の運動とほぼ同時期に始まる、府中療育センター闘争にいたる。

70年5月、横浜で、2才になる障害児を母親が殺害するという事件が起こった。事件後すぐ町内会、障害児父母の会によって減刑嘆願運動が起こる。青い芝神奈川支部はこれに反対する運動をおこした。

70年11月、東京都府中療育センターにおける劣悪な処遇に反対して入所者のハンストが始まる。

72年9月から都庁前にテントを張っての座り込みが始まり、以降2年間に渡る闘争に発展する。その結果、東京都では、施設の個室化を政策に掲げ、またセンターから地域へ出て暮らしが始めた人たちのために「重度脳性マヒ者介護人派遣事業」が創設され、74年から実施される。75年に厚生省でもこの動きを受けて、重度障害者の「生活保護他人介護加算の特別基準」への適用を始めた。

これらの制度が出揃ったことで、重度障害者が地域で暮らす条件は、一部では徐々に整ってきたと言える。72年に仙台市で、第1回車いす市民全国集会が開催される（←このことから、毎年春のJIL総会は仙台で開催されることとなった）。この集会をきっかけに仙台市では道路の段差にスロープがつけられた。この集会は以降隔年に開催され、京都、名古屋、東京へと引き継がれ、現地の実行委員会が若手の障害者を糾合し、草の根の障害者団体の育成に寄与するとともに、街づくり運動の端緒ともなった。

日本で初めてのILセンターは1986年6月の東京・八王子のヒューマンケア協会の発足を待たねばならなかった。それまでの障害者運動は行政の施策に対するプロテストや要求、活動、権利擁護活動が中心であり、当事者がサービスを提供するという視点が全くなかったか、無自覚であった。ヒューマンケア協会はその発足の当初から「これまで福祉サービスの受け手であった障害者が、福祉サービスの担い手となる」と、明確にサービスの担い手になることを自覚して、ILセンターの組織作りをしている。

ヒューマンケア協会は、職種に最適な人材を障害種別や地域枠を越えて集めた機能集団として意図的に作られたことが、特筆に値する。これも障害者運動の歴史上になかったことである。

1989年より、ヒューマンケア協会という第1号の自立生活センターをモデルとして、またその事務所で働いたり、研修した人たちもその経験を生かして、徐々に全国にILセンターができて来た。町田ヒューマンネットワーク、ハンズ世田谷、CIL立川などが純粋にILセンターを指向して生まれた。以前からあった札幌いちご会、その組織を発展、改変させたAJU自立の家、静岡障害者自立生活センターなどの組織でも、自立生活プログラムや介助サービス、ピア・カウンセリングを開始し、戦列に加わってきた。

一方、静岡では、渡辺正直を中心として、重度障害者の地域生活を展開してきた。

80年代～90年代半ばまでは、ボランティアを主体として介助者を募り、生活を送っていた。

様々な人脈づくりや関係づくりが最重要であり、自らが意思表明して「どんなに重い障害があっても、病院や施設ではなく地域で暮らす」との強い決意のもと、暮らしていた。

最終目標は「24時間365日、必要な介助（公的保障）を得て自由に暮らす」であり、そんな中から静岡市で重度障害者登録ヘルパー制度を、運動により実現させた。

その後、2000年代に入り、2003年に支援費制度が始まり、重度障害者の地域生活、自立生活は大きな転換点を迎える。

自分の望む暮らし（介助）を、公的に要望し、それが現実となって認められる制度であったからである。（しかし、そうはいっても支給時間数の上限はあったが）

静岡の重度障害者も、あくまでも24時間介助保障を目標として、定期的に市行政（障害福祉課）との交渉を続けていた。

これは、現在でも続く平行線の議論だが、静岡市の時間数算出方法は、「介助行為の積み上げ」方式であり、現在の制度である重度訪問介護（見守りをベースとした断続的な長時間介助保障）の考え方沿わないものである。

静岡障害者自立生活センターでは、利用者である重度障害者が会員となり、会費を払うとともにこの時間数交渉を自身が実践していくことで、センターが保障（持ち出し）して24時間介助保障をしてきた。

ここで、地域で暮らす在宅の重度障害者の「役割」と「介助保障」を両立させてきたのである。

近年の制度（自立支援法→総合支援法）の確立と平行線の交渉、長年のセンターからの介助保障や当時の障害者の死去などもあり、現在は障害当事者自身の制度交渉が停滞しているのが現状であるが、根幹はやはり重度障害者、障害当事者自身が交渉し権利獲得していくのが重要である。

現在、「介護保障を考える弁護士と障害者の会全国ネット」が発足し、有志の弁護士の会が、時間数アップの進まない各地の交渉を支援している。

静岡市においても、静岡自立の仲間であるHさんの24時間介助保障を実現させている。

これには、本人の決意はもちろん、弁護士とともに静岡障害者自立生活センターのスタッフが、粘り強く交渉にあたった成果である。

最終的な目標は、重度知的障害者や脳性麻痺者の24時間介助保障であり、「どんなに重い障害があっても、地域で共に暮らす」ことである。

最重度の障害者が、自ら自身の介助保障を交渉し、実現させていくということは、「24時間要介護の人が交渉すれば、それより軽度の人は、全員助かる」ということに繋がるのである。

加えて、障害者運動、障害者の権利擁護運動の観点からも、重度身体障害者（特に車いす利用の身体障害者）が運動や交渉を引っ張っていくことの意味は、その後ろにいる軽度障害者、知的障害者や精神障害者など自身の意思を伝えられない人たちの権利獲得が本丸だからである。

（文責：大川速巳）

※出典：中西正司「自立生活の基本理念とその歴史」



ひまわりヒストリア～あの日あの頃～

その6 1979年 ひまわり寮～私たちの活動の原点

文責：奥村譲

障害者の共同生活寮「ひまわり寮」誕生！

1978年、1名の健常者と2名の障害者が、静岡市籠上に「ひまわり共同販売所」をオープンした。ここでは、障害者や高齢者の作品を販売し文具や印刷などの委託販売なども行ったが、1年足らずで立ち行かなくなり閉店となった。その翌年（1979年4月）、この失敗を教訓に、彼らは、今度は市内駿河区豊田で、もと企業の社員寮だった一軒家を借りて、「ひまわり寮」を設立した。この、ひまわり寮こそが、現在のひまわり事業団につながる、私たちの活動の原点である。

ひまわり寮は、障害者が共同で生活する寮である。

当時はまだ、「グループホーム」という言葉さえなく、障害者が社会でかろうじて生き？できる環境は、ほぼ「自宅」か「施設」のどちらかに限られていた。「自宅」といっても時に「まるで座敷牢のよう…」と揶揄（やゆ）されたように、障害者の多くは自由に外に出ることが出来なかつたし（そもそも外に出ても町は段差だらけだし、バスや電車には乗れなかつた）、「施設」といっても、人里離れた山奥で、自由がない状態で隔離されるようなイメージだつた。そんな中、私たちの団体の先人たちは決死の覚悟で、施設や親元を飛び出して、地域で共同生活を始めたのである。

ひまわり寮って、こんなトコ

ひまわり寮について簡単に説明しておこう。

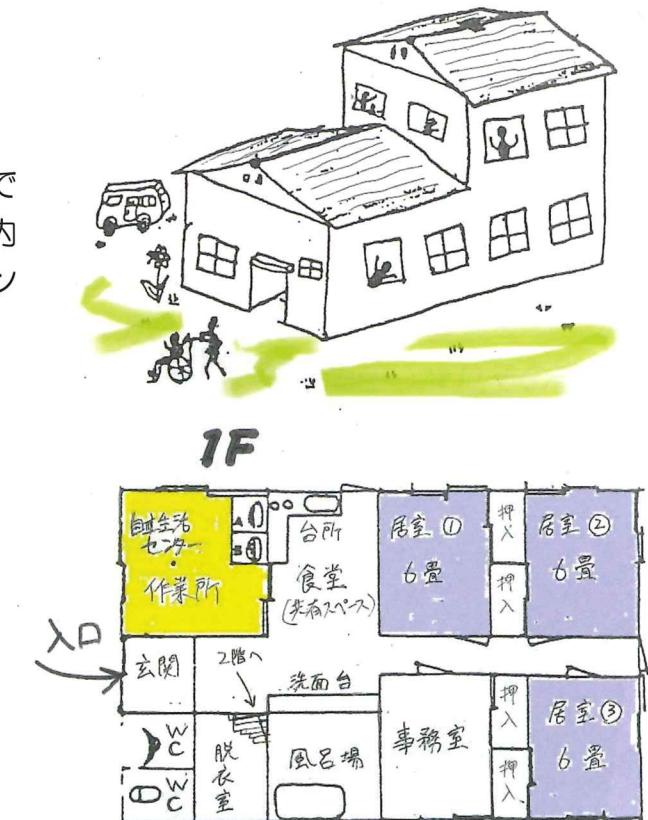
寮の建物は木造2階建て。玄関を入ってすぐ左手に、共同で活動できるスペースがあり、日中メンバーはここに集まり、内職作業などをしていた（のちにここが静岡障害者自立生活センターの事務所にもなつた）。その奥は食堂兼台所。

さまざまな職業をもつた女性ボランティアが日替わりで夕食作りに訪れた。

夕食の時間はいつも賑やかだった。寮の住人だけでなく、（特に人気のある女性ボランティアの日は）ぶらりと立ち寄る人なども多く、狭い茶の間は立錐の余地もないほどだった。

またこの食堂は、時には、夕食後に徹夜マージャンの会場に早変わりした。

玄関を中心に食堂の反対側には、トイレと風呂があった。昭和の時代のハナシだ。トイレは水洗では無かつたし、風呂にはシャワーなんて無かつた（そのせいか、玄関周辺にはいつもトイレ臭が漂つていた）。



~8~

玄関からまっすぐのびる廊下の左右に2つずつ、計4つの部屋があつた。

うち3部屋が寮の住人の居室であり、1部屋はタイプ印刷の仕事部屋になつていた。

また、寮の2階にはN氏（健常者）一家が住み、陰に陽に、階下の住人のサポートをした。

まるで梁山泊？

先ほど「決死の覚悟で施設や自宅を飛び出し…」と書いたが、これは決して大げさな表現ではない。

当時は、今のようなヘルパー制度がほぼ皆無に近かつた時代だ。介護者のアテもない中、周囲の反対を押し切つて、施設や親元を飛び出すなんて、「自殺行為」と思われても当然だつた。

ひまわり寮で生活を始めた最初の障害者メンバー3人の中には、後に静岡障害者自立生活センターを立ち上げ、当団体のシンボル的な存在となる渡辺正直（まさなお）がいた。

渡辺は、3人の中でも特に重度（進行性筋ジストロフィー）で、日常生活の多くの部分で介助の手を必要とし、毎晩さまざまな人たちが夜間の寝返り等の介助のために、ボランティアで寮に泊まりこんだ。当時学生であった私もそのひとりだつた。



まだ世間を知らない20歳そこそこの若者の目に映つた、ひまわり寮の姿とは？…「まるで水滸伝に出てくる梁山泊のようなところだった」と表現すればわかつてもらえるだろうか？（かなり大げさだけ…）寮には、住人を中心として、活動家、宗教家、学生、主婦、ノンポリ、女性目当ての人、特に用もない人…毎晩、実に雑多な人たち出入りして、時には酒を酌み交わし、時には口角泡を飛ばして議論をした。女性を口説く目的の者もいれば、徹夜マージャンが目的の者もいたし、議論が沸騰するあまり取つ組み合いのケンカが始まる事もあった。

寮にはいつも、すさまじいほどの「生のエネルギー」が充満しているようだつた。

学生の私はといえば、大学で講義を聞いているだけの退屈な毎日より、「生きた学校」とも言えるひまわり寮に魅了され、次第に大学から足が遠のくようになつていった。

ひまわり寮のここがスゴかった

ひまわり寮の住人は、障害者・健常者かわらず「共に生きる仲間」という同じ立場で、家賃を払い、運営について意見を出し合い、物事を決定した。そこには、後に制度化されるグループホームのように、支援する側（支援員）とされる側（利用者）という壁はなかつた。

したがつて管理人も指導員もおらず、ルールは全部自分たちで決めた。

基本的に、他人に迷惑をかけない限り何をやっても自由。

門限もなく、お酒も男女交際も自由（寮で「出来ちゃつた結婚」したカップルが実際何組もあつた）。

施設や、グループホームだと、さすがにこうはいかないだろう。

ひまわり寮は、1984年にその役目を終えた。

15年の間に、20名を超える障害者がここを足がかりに、地域へとたくましく巣立つていった。



~9~

サポーター×サポーター

杉山秀子×望月賀津子

互いに支え合う、「利用者とヘルパーの関係」に焦点を当てる本企画。

第5回目は、ひだまりと生活介護それいゆの利用者杉山秀子さんと、望月賀津子チーフヘルパーに、お話を伺いました。



★プロフィール 杉山 秀子

現在、ひまわり事業団の生活介護それいゆに週2回通う。お姉さんの存在。

誕生日：6月25日。血液型：O型。年齢：内緒。

ニックネーム：でこちゃん。

趣味：UVレジンでアクセサリー作り。水彩とパステルを使用して絵本作り。旅行！！旅先でのお土産選び。ショッピング。映画鑑賞。スマホのゲーム（自称リハビリと頭の体操）。

長所：優しくて素直。やると決めたら集中力を発揮！頼まれたら断れないから、皆頼み過ぎないね。

短所：気が短い。妹とよくケンカをする（笑）。

★プロフィール 望月 賀津子

ひだまり在籍24年のチーフヘルパー。「かつこの部屋」主催者。

誕生日：1月31日。血液型：B型。年齢：内緒。

趣味：ママさんコーラス。永ちゃん（矢沢永吉）のコンサートに行くこと。サッカー観戦。旅行。とにかく遊ぶことが好き。

長所：優しくて人の話を良く聞いてくれる。

短所：ちょっとぴり？そそつかしい。



○現在は母屋の隣で一人暮らしをされていますが、どのようなことがきっかけで一人暮らしに踏み切ったのですか？

秀子：青信号の横断歩道を歩いている時に交通事故に遭って頸髄損傷。

総合病院に半年入院して、リハビリ病院に一年半も入院をして。

自分の部屋が出来るまで先生は病院にいていいよ、とは言ってくれたけど…やっぱり住み慣れた地域で生活し続けたかった。地元は坂道が多いので、車椅子で生活するには大変そうで、迷いもあったけど、一人で生活をしてみるのも良い経験だと思ったから。困難も経験かなと、前向きに考えたんだ。早く自分の部屋を作ってほしいって、母や妹に泣いて頼んだよ。相談員さんからも、ヘルパーを使って生活が出来ることを聞いて、頑張ってみようと思った。

○お二人の出会いは？

賀津子：H11.10.29～の付き合いになる。秀子さんがリハビリ病院を退院した年に、ヘルパーとして入りはじめたのがきっかけ。初詣に護国神社に行くようになってからは、あちこち一緒にでかけているね。

秀子：護国神社には毎年行っているでしょ。法多山にも行っている。とにかく旅行はたくさん一緒に行っている。もちろん家族も一緒に。京都、大阪、奈良、神戸。東京は浅草、巣鴨、歌舞伎座、銀座、などなど。

ディズニーランド・シーも大好きで毎年行ってはグッズを買ってきている。

今年のGWは福岡の博多に2泊3日。太宰府天満宮も行ってきたよ。

○旅行では色々な場所へ行かれて、とてもアクティブですね！旅行に行ったときのエピソードを聞かせて下さい。

秀子：カクテルをどうしても飲んでみたくて。飲んだら身体に湿疹が出た！

そして帰ってきてから訪問に怒られた！

良かった事は皆と神戸の異人館でアイスを食べたこと。ハンカチの藍染体験、和菓子作り体験も楽しかった。皆と一緒に物作りをすることで、心に残る思い出が作れたことかな。



○皆と一緒に何かすることが楽しいんですね。

秀子：そうそう！一緒に何かをして楽しんだりすると、心の触れ合いを感じる。

旅先で階段を登る時などに、通り掛りの方が手伝ってくれるのも嬉しい。段差があっても手伝ってくれて。コミュニケーションが広がっていくようで。そのことが嬉しい。

賀津子：平等院で、工事中の看板があって、どうしても見たくて再度リベンジ旅行もしたね。



○旅行以外の趣味についても教えてください。生活介護それいゆに通っていない日は、自宅でどのように過ごしているんですか？

秀子：絵本作り。でも、忙しくてなかなか出来ない。編み物で帽子作りも、進めていきたい。

○創作活動がお好きなんですね。

秀子：料理をする機会も持つみたいと思っている。餃子作りとか、100均で包む道具があるので、手が不自由でも作ることが出来る。母が、高齢なので、自分で出来ることは、どんどんやっていかないと。

だから、リハビリも頑張る！家族に負担をかけないように…

賀津子：8年前は出来ないことがいっぱいあったけど、秀子さん、コツコツと努力して出来るようになった。えらいね。電動車椅子も練習して乗れるようになったし。でも私とは腐れ縁だね（笑）。



○自分で衣類を取り出せるように、ある日突然、賀津子さんがタンスの位置まで変えてしまったと聞きましたが…？

秀子：そうそう！結果的に車椅子でタンスの前まで行けるようになって、引き出しをヘルパーにあけてもらったら、自分で着たい洋服が選んで出せるようになった！他にも、自分が使いたい物はなるべく、手の届く位置に収納をもらって、在庫も確認出来るようになってきた！こういうの、嬉しい！これも賀津子さんの提案で。タンスを動かした時はびっくりしたけど（笑）。

賀津子：一時期、秀子さん甘えるのが上手になりすぎちゃったからね～（笑）。

秀子：せっかく真面目に話しているのに。そんなこと言わないでよ～

○ところで、秀子さんの理想のヘルパー像はどんな感じですか？

秀子：コミュニケーションが自分と上手く出来て、やってもらいたいことが気軽に言える人。

○ちなみに、これから秀子さん像は？ヘルパーに伝えたい事はありますか？

秀子：ヘルパーとはこれからもうまくやっていきたい。人生を楽しみたい。時々過去のことを言って賀津子さんに怒られることがあるけど。どうしても、落ち込むことはあるんだよ。怪我をしたり、病気になった時、ヘルパーの存在に勇気づけられる。家族では解決出来ない事もあるんだよね…家族には甘えてしまうから。ヘルパーから言われるとちゃんとしなくちゃとやる気になる。今の自分にとってヘルパーは大切なパートナー。今、楽しく生活出来ているのも皆のおかげ。

○最後に秀子さんから賀津子さんに何か一言をお願いします。

秀子：頼りがいのあるお姉さん。これからも宜しくお願いします。私の悪いところをしかってくれて有難うございます。私のことを考えて関わってもらって、本当に助かっています。これからの旅行も宜しくお願いします。

○賀津子さんから秀子さんに一言をお願いします。

賀津子：秀子さんと出会って10年が経ちますが、日々努力を重ねた結果、いろいろなことが出来るようになりましたね。これからもビシバシいきますので、へこたれずついてきてね！

終始、ニコニコと受け答えをしてくれる秀子さん。その傍で合いの手を入れる賀津子さんとのやり取りに「2人は仲いいんだから～!!!」とやきもちを焼いている妹さん。なんとも微笑ましい光景（笑）。

秀子さん、賀津子さん、有難うございました。

★ぴょんた絵本…田んぼでカエルが鳴いていて、ひらめいた作品。

★詩を書くのも好き。ほんの一例♪

人
障害者、健常者もみな同じ
若い時に身体が
不自由になるか
年をとってから
不自由になるか

窓
窓があるからけしきが見える
窓がなければけしきは見えない

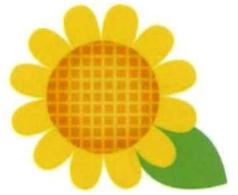
何度でも
何度でも あきらめずにがんばる
あきらめたら
そこでおしまいだ

天井
自分の部屋で 一人天井を見ている
天井の形は みかたをかえても形はかわらない
まるで今の自分の心のようだ
昔をふりかえっても、戻らない
前を向いて あるくのは とても大変だ



ひまわり事業団（静岡障害者自立生活センター）

～新役員のご紹介！～



ひまわり事業団は、この6月から新たな役員体制で再スタートします。代表（理事長）が代わり、理事にはフレッシュな顔ぶれも加わりました。これから2年間、皆さん、どうぞよろしくお願ひします！

○新理事長 小久江寛（こくえひろし）よりご挨拶

このたび、令和元年6月1日より新理事長として着任しました小久江 寛（こくえひろし）です。当法人は、約40年ほど前より障がい当事者が中心となり、障害者運動を中心的に活動していましたが、国の制度の動きの中で支援費制度がはじまり、自立支援法になり、市民活動中心だった運営から、障がい福祉サービス中心に運営するようになりました。そしてまた、事業収益、職員も増え、事業運営での経営力を求められるようになってきています。

このたび、理事長に就任し、この責任の重圧を感じているころではありますが、障害当事者の主体性を重視しつつ、地域の中で、ひまわり事業団だからこそできることを念頭に置き、その使命を果たすべく努力していきます。

今まで支えて頂いている皆さまには、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

○新役員のプロフィール

※イラストは大川理事が描きました。似ている人もいれば、似ていない人もいるかも知れませんが、ご容赦下さい。

役職名 氏名	★プロフィールの見方 ①所属、②趣味や特技、③いちばん幸せを感じる時、④ひとことメッセージ
理事長 小久江寛 	①NPO法人ひまわり事業団 理事長 ②インターネット閲覧。電動車イスでプラプラ散歩。釣り（最近行けていない）。 ③自宅のパソコンに向かってインターネット閲覧をしているとき。 ④障害当事者の主体性を重視しつつ、地域の中で、ひまわり事業団だからこそできることを念頭に置き、その使命を果たすべく努力していきます。
副理事長 村松雅也 	①NPO法人ひまわり事業団 副理事長 ②小田和正の曲を聴くこと。 ③毎日、晩酌をすること。 ④ひまわり事業団の発展のために、小久江新理事長を支えられる理事の一人として頑張ります。よろしくお願いします。
理事 大川速巳 	①静岡障害者自立生活センター ②史跡めぐり。音楽活動。 ③夜中にイカしたブルースを聴きながら妄想しているとき。 ④人生のブルースを楽しむつもりで、何事も向かい合っていく。夢を忘れずに生きよう！

役職名 氏名	★プロフィールの見方 ①所属、②趣味や特技、③いちばん幸せを感じる時、④ひとことメッセージ
理事 <small>おくむらゆづる</small> <small>奥村 誠</small> 	①NPO 法人ひまわり事業団 総務部長 ②絵を描くこと。海外をフラフラすること。ヨガ。登山、カヌー、キャンプなどのアウトドア。 ③湖に浮かべたカヌーの上で、ひとりで読書したり寝たりする時。 ④ひまわり事業団（静岡障害者自立生活センター）の草創期を知る、希少な絶滅危惧種？のひとりとして、今後ますます存在感を發揮します！
理事 <small>さくらいくにこ</small> <small>桜井邦子</small> 	①就労継続支援B型ありんこの里 生活支援員 ②神社や寺めぐり（朱印帳）。最近始めた大人のぬり絵。 ③1人温泉（何も考えずボーッとできる所）。おいしいごはんを食べる時（特に西海亭の長崎ちゃんぽんが一番）。 ④大先輩の亀山さんからバトンタッチしました。聴覚障害者です。情報交換したり、人ととの出会いも楽しみにしています。よろしくお願ひいたします。
理事 <small>すずきかな</small> <small>鈴木香奈</small> 	①NPO 法人ひまわり事業団 生活介護それいゆ 責任者 ②人を笑わせること。場を盛り上げるのは得意だと思っています。 ③子ども達の楽しそうにしている笑顔を見ている時。美味しいものを食べている時。 ④女性という立場で、こまやかな配慮ができる理事でありたいです。頑張ります！
理事 <small>まきのよしひろ</small> <small>牧野善治</small> 	①NPO 法人静岡市障害者協会会长・静岡県重症心身障害児（者）を守る会会長 ②サッカー観戦、海外ドラマ・映画鑑賞、防災対策、ビール・ウイスキー。 ③映画館でビールを飲みながら、好きな映画を見るとき。 ④1996年頃から、当時のピアサポートセンターからの関わりで故渡辺正直氏の市議活動も手伝っていました。高い理念をどう実現するか？は古くて新しい課題です。重症心身障害がある子の親として、もうしばらくこだわります！
理事 <small>やまとただひろ</small> <small>山本忠広</small> 	①NPO 法人清水障害者サポートセンターそら 理事長 ②キャンプやバーベキュー。 ③焚き火の炎を見ている時。 ④微力ながら法人運営のお手伝いができたらと思います。よろしくお願ひします。
監事 <small>いでひとし</small> <small>井出一史</small> 	①NPO 法人障害者生活介護支援センターおのころ島 理事長 ②仏像彫刻、オーディオ。 ③おいしいものを食べている時。 ④ひまわり発足当時から見ている人間として、陰ながら応援しています。
監事 <small>ほりひでお</small> <small>堀英雄</small> 	①株タカラ・エムシー 社長室 特命担当部長 ②スイミング、ゴルフ、ガーデニング。 ③スイミング大会の後、仲間と反省会（飲み会）をしている時。 ④ひまわり事業団の事業成長に尽力していきたいです。

○村松雅也（むうまつまさや）理事長退任にあたってのご挨拶

私が、ひまわり事業団の理事長になって早いもので2年が経ちました。当時、法人内にはいろいろな課題がありました。一人では解決方法も解らず勿論、解決もできませんので専門家（弁護士・社労士・産業医）の先生方のお力を借り、また、理事会を2ヶ月に1回のペースで開催しました。会議の在り方も再構築すべく相談役の丸林氏には実際、会議にも参加して頂き一緒に議論をしてきました。役員としての任期、1期2年ではやり残したことが多くあるのではないかと感じていますが。

「次期、誰を理事長にするのか？」真剣に理事の方々で議論してほしい。歴史あるひまわり事業団を後世に残すために、先人たちが築き上げてきたことを大切にしつつも時代に合わせたその時々の動き方が出来る、そして「運動」と「事業」をバランス良くおこなえる知識を持った理事長を選ぶべき!! との私の想いに添って頂き、忖度があつてもいけないため、その場で私は席を外し約1時間弱での話し合いの結果、次期の理事長が小久江氏に決定されました（5月1日理事会）。理事の方々には正しい結論を出して頂いたと想っています。

次期、私はひまわり事業団の副理事長として、小久江新理事長を支える立場となります。微力ながら精一杯、頑張りますので宜しくお願ひ致します。

最後に2年間、理事長としての私を支えてくださった、理事の方々をはじめとする職員、ヘルパーさん達、ひまわり事業団に関わる全ての方々に感謝を申し上げます。

令和元年5月31日

ひまわり事業団 理事長 村松雅也



○退任される役員からのメッセージ

亀山理事と杉本理事についても、5月末で任期満了にて退任となりました。お二人から、以下のような温かいメッセージをいただきましたので、ご紹介いたします。

亀山勝二

私、亀山は5月をもって、ひまわり事業団の理事を退任いたすことになりました。思えば渡辺正直氏存命中から長きにわたり公私共、大変お世話になりました。「障害者が当たり前に暮らせる社会を」をモットーに皆様よりご指導ご鞭撻をたまわりましたことは私にとっては有意義な時期でもありました。

正直にいいとひまわり事業団がこんなにも大きくなるとは予想だにしませんでした。これはひとえに理事長はじめとして職員の皆様の頑張りと努力以外何物でもないと思います。ひまわり事業団の今後の発展を心よりお祈り申し上げます。長い間本当にありがとうございました。